

[専門教育科目/看護の統合と発展]

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
感染看護論	NSP44_004	選択	1	4	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
堀口 まり子	408	mariko.horiguchi	振り返り用紙及び授業中の Teams による質問等の受付		
授業の目的・概要	感染を未然に防ぐ知識と技術は、地域・在宅から高度専門医療機関まであらゆる看護の領域において必要なため、施設内および市中感染における感染防護のための基礎的知識・技術、感染症を罹患した患者の看護のために基礎的知識と技術を学習する。具体的には、感染症とそれに対する生体防護機構を理解し、感染予防技術の原則について学ぶとともに、看護の専門領域としてその活躍が期待されるインフェクション・コントロールナース（感染管理認定看護師）の役割について学習する。双方向型授業で、感染看護の事例を展開する中で、臨床で行われている感染看護の理解を深める。				
学習上の助言	近年の感染対策の動向と感染対策の基本的な考え方が理解でき、整理できるように実際の事例を意識的にとりあげる。感染対策の看護を実習体験から振り返り、看護を考える機会にすること。				
教科書	なし				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学3基礎看護技術Ⅱ / 編：有田清子 / 医学書院 ・系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学11アレルギー-膠原病感染症 / 編：岩田健太郎他 / 医学書院 ・新・感染と微生物の教科書 / 編：田爪正気 / 研成社 				
① 看護における感染制御学の位置づけを説明できる			関連卒業認定・学位授与方針		
② 標準予防策と経路別予防策を説明できる			HSU(2)、NS(3)(4)		
③ 臨床で実施する標準予防策と経路別予防策が行える			HSU(2)(5)、NS(3)		
④ 事例を通して感染制御が必要な患者の看護が説明できる			HSU(2)(5)、NS(3)(4)		
⑤ 手指衛生・感染予防策の技術を実践できる			HSU(2)(5)、NS(3)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	授業ガイダンス 看護における感染制御学とは ・ICC、ICT、ICNの役割と必要性 ・感染症看護専門看護師の役割 ・医療関連施設における実際の感染制御への取り組み	印刷教材とメールによる質疑応答での双方向型授業	事後課題：医療関連感染制御に従事する看護師について整理する。	3	
2	感染が成立する条件について 標準予防策と経路別予防策 (1) ・看護における感染制御の基礎知識 ・標準予防策の目的と適応	印刷教材とメールによる質疑応答での双方向型授業	事前課題：標準予防策と経路別予防策、接触・飛沫・空気感染の制御について整理する。	3	
3	標準予防策と経路別予防策 (2) ・微生物の感染経路・感染症の検査 ・標準予防策および経路別予防策の実践と応用	印刷教材とメールによる質疑応答での双方向型授業	事前課題：微生物の感染経路・感染症の検査についてまとめる	4	
4	アウトブレイクへの対応 職業感染対策、サーベイランス 予防接種とワクチン	印刷教材とメールによる質疑応答での双方向型授業	事前課題：アウトブレイクへの対応、職サーベイランスについて整理する。	4	
5	感染制御が必要な患者の看護 (1) ・症状看護 ・感染症疾患への看護	同時双方型授業	事前課題：感染症看護に関することを整理する。	4	
6	感染制御が必要な患者の看護 (2) 事例検討	同時双方型授業	事後課題：感染症予防策の事例検討を行い、感染対策を考察する。	4	
7	手指衛生の手技、ガウンテクニック等の実際	同時双方型授業	事前課題：感染制御の必要性や手技について、再度レジュメや教科書で確認する。	4	
8	これまでの学習の総括	同時双方型授業	感染制御の必要性や看護師の役割について、今までの授業で確認する。	4	
試	達成度評価・評価のポイント参照				

[専門教育科目/看護の統合と発展]

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	100	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	0	40	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	0	30	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
		0	30	0	0	0	30
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
レポート	①	✓	毎回の授業での課題および最終レポートにより、授業内容の理解およびテーマに対する学生自身の考え方が明確に表現されているかを評価する。(課題レポート40%、最終レポート60%)				
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
備 考							
担当教員：堀口まり子							
教員の実務経験 ：看護師として40年の臨床経験 実践的授業の内容 ：実務経験のある教員の指導のもと、感染看護の基本的な知識について理解を深める。 教員の経験から実践事例を取り上げ、各種参考書と比較しながら学習できるよう情報収集ができる。							
・印刷教材とメールによる質疑応答での授業とMicrosoft Teamsを使用した同時双方向型授業を用いて実施します。 同時双方向型授業時は、通信環境の良い場所で授業をうけるよう留意してください。 通信量削減のため、学生はビデオ機能を基本的に使用しないように留意してください。 ・新型コロナウイルス感染症による影響などの社会情勢により再度シラバスの変更があることも考えられますが、その際には随時お知らせします。							